

※本資料は、R6.1.30 時点の素案であるため、
今後予定している意見提出手続(パブリックコメ
ント)時には、資料内容に変更が生じる場合があ
ります。

カムイスキーリンクス リフト利用料金の見直し (案)

令和6年(2024年)

旭川市観光スポーツ交流部スポーツ課

目次

1 はじめに

- (1) カムイスキーリンクスの経緯 1
- (2) カムイスキーリンクスの概要 2
- (3) カムイスキーリンクスの利用状況 3

2 新リフト利用料金（案）について

- (1) 現在のリフト利用料金 4
- (2) リフト利用料金見直しの背景 5
 - ア スキー場の魅力・利便向上
 - イ 物価高騰への対応
 - ウ 市場価格との乖離
- (3) 新利用料金設定基準(案) 6
 - ア 他のスキー場との比較
 - イ リフト利用料金の上限額
 - ウ 20時間券の新設
 - エ シニア料金対象年齢の改定
- (4) その他 9

1 はじめに

旭川市神居町西丘に位置するカムイスキーリンクス(以下「リンクス」という。)は、道北最大級のスキー場であり、旭川市民をはじめとした近隣市町村住民だけではなく、国内外からも多くの方に来場いただいていることから、地域のスノースポーツ推進のための拠点施設としての役割に加え、広く観光客を集客し、地域経済の成長及び地域活性化を図る観光施設としての役割も担っています。

今後のリンクスの管理運営に当たっては、道北最大級かつ都市近郊型スキー場としての利点を生かし、地域住民の利用拡大はもとより、世界に誇れるスキー場として、更なる施設の発展とサービスの充実を図る必要がありますが、昨今の原油価格、電気料金、人件費、食材費の高騰及びスキー場の施設・設備の老朽化に対応するための管理運営費の確保が課題となっています。

利用者への安全の提供、良質なサービスの維持・向上並びに魅力的なスキー場を目指すため、リフト利用料金の見直しを指定管理者である一般社団法人大雪カムイミントラDMO(以下「DMO」という。)と協議を重ねているところです。

つきましては、令和6年度(2024-25 シーズン)からの本リフト利用料金見直し案に対する意見提出手続(パブリックコメント)を実施いたしますので、ご意見、ご提言をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

(1) カムイスキーリンクスの経緯

リンクスは、昭和初期に「国設神居山スキー場」として開設され、昭和59年には名称を「カムイスキーリンクス」に改め、新たなスキー場として生まれ変わり、以降40年間にわたり運営されています。

この間、平成15年には、当時の運営事業者の経営上の問題からスキー場の存続が危ぶまれましたが、市としてスキー場を存続させるため、議会の議決を経て、運営事業者にリンクスの土地(国有地を除く)、センターハウスなどの建物やゴンドラ、リフトなどの設備の無償貸付を行い、運営事業者がこれらを使ってスキー場を運営する形をとってきました。

平成25年からは、リンクスを将来にわたって存続させることや、市の財産の適切な運用・管理のために、スキー場を条例に基づく公の施設として位置付け、指定管理者制度により運営を行ってきたところであり、平成30年からは公募から公募によらない指定管理者の選定に変更し、DMOによる管理運営を行ってきたところです。

(2) カムイスキーリンクスの概要

リンクスは、ゴンドラ1基、ペアリフト5基を持つ道北最大級のスキー場です。3本のFIS公認コースや未圧雪のツリーランコースなど、初級者から上級者まで楽しめるバラエティに富んだ全25コース(総滑走距離 24,300m)と、シルキースノーと称される良質な雪が魅力です。

旭川市中心部から車で約40分、旭川空港から車で約60分という所要時間は、道内の同規模のスキー場と比べても好アクセスであり、旭川市をはじめとした近隣市町村の学校授業、道外からの修学旅行としても利用されているほか、これまでに「全日本スキー選手権大会」「全日本学生スキー選手権大会」等の全国規模の大会も開催しています。

また、夏季にはグラススキーやパラグライダーを楽しめるほか、令和4年度からは紅葉シーズンにゴンドラを運行し、空中散歩や神居山山頂からの景色を楽しむイベントを実施するなど、通年での施設活用を図っています。

【カムイスキーリンクス コースマップ】

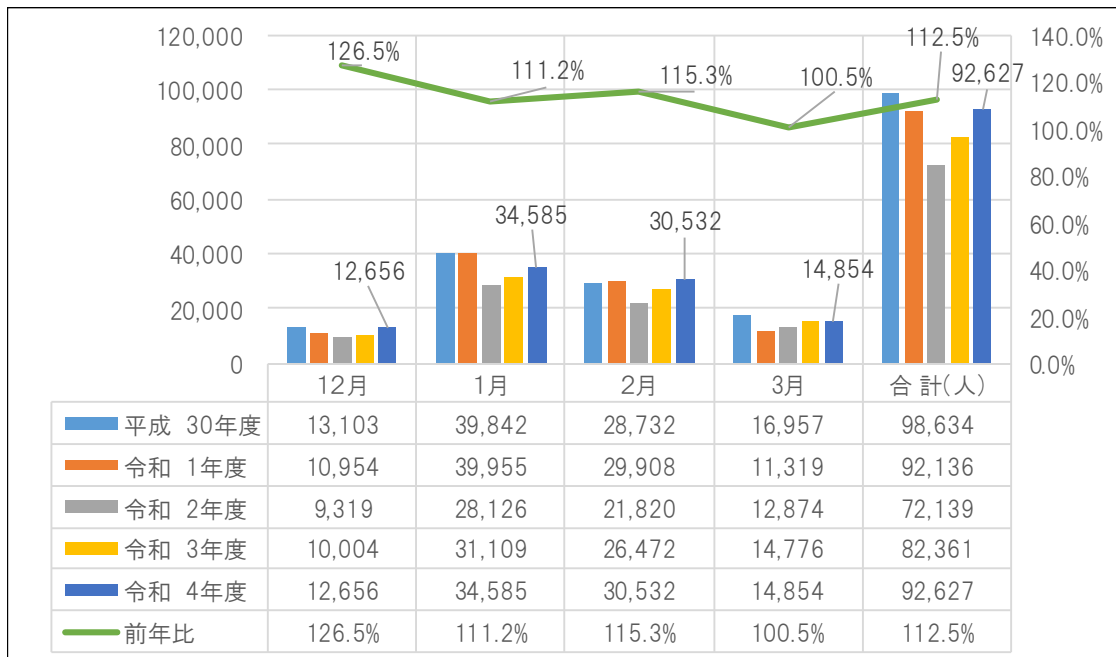


(3) カムイスキーリンクスの利用状況

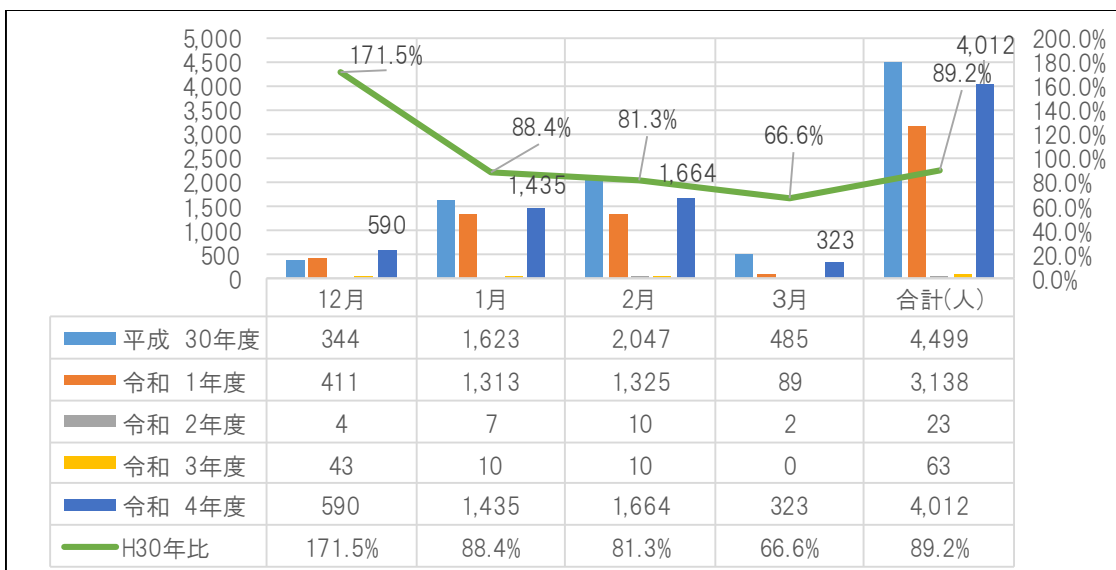
新型コロナウイルス感染症の影響により、リンクスの令和2年度から令和3年度までの利用者数は落ち込んだものの、知名度向上や利用者の満足度を高めるため、他のスキー場と連携した共通リフト券の販売や SNS による情報発信などの集客力向上を図り、前5年間と比較しても大幅に利用者数が増加しています。

また、新型コロナ収束に伴い、外国人観光客も令和4年度から回復傾向にあります。

【直近5年間の利用者数実績】



【直近5年間の外国人利用者数実績】



2 新リフト利用料金(案)について

(1) 現在のリフト利用料金

リンクスのリフト利用料金は、旭川市スキー場条例(以下「条例」という。)の利用料金設定基準で上限額を定めています。その上限額の範囲内で、指定管理者が「カムイスキーリンクス利用料金規程」を定め、基本料金を設定しています。

直近では令和元年度に条例を改正し、2019-20シーズン以降は、各券種の基本料金を条例の上限額で設定しています。

【利用料金設定基準】 ※旭川市スキー場条例抜粋

区分		単位	金額	
スキーリフト	個人	小学生	円	
			1回(リフト)	200
			1回(ゴンドラリフト)	400
			回数券(リフト12回分)	1,400
			4時間	1,600
			1日	1,800
		1期間	24,000	
		60歳以上の者	1回(リフト)	400
			1回(ゴンドラリフト)	1,000
			回数券(リフト12回分)	2,700
			4時間	2,900
			1日	3,200
			1期間	52,000
		上記以外の者	1回(リフト)	400
			1回(ゴンドラリフト)	1,000
			回数券(リフト12回分)	3,100
			4時間	3,300
			1日	3,800
1期間	60,000			

備考

- 1 スキーリフトの使用において、小学校入学前の者は、無料とする。
- 2 「1回」とは、リフト又はゴンドラリフトの片道の使用をいう。
- 3 回数券は、3回分でゴンドラリフトを1回使用することができる。
- 4 「4時間」とは、第4条第1号に規定する使用時間(スキーリフトを使用することができる時間に限る。)のうち連続した4時間をいう。
- 5 「1期間」とは、スキーリフトを使用した日からその日の属する年度の使用期間の末日までをいう。
- 6 ゲレンデ及びセンターハウスの使用は、無料とする。

(2) リフト利用料金見直しの背景

リンクスは、地域のスポーツを推進する拠点施設であるとともに、国内外の観光客を集客し、地域経済の成長及び地域活性化を図る観光施設としての側面もあることから、利用者への安全の提供、良質なサービスの維持・向上が求められています。

また、建物や設備の経年劣化による施設の更新が課題となっている中、昨今の物価高騰の影響を受け、年々スキー場運営にかかる経費が増嵩していることに加え、スキー場の魅力や利便性をさらに向上させていくため、この度のリフト利用料金見直しに至りました。主な見直しの理由は次のとおりです。

ア スキー場の魅力・利便向上

シルキースノーと称される良質な雪、バラエティに富んだコース、高品質なサービスに磨きをかけ、世界に誇れるスキー場を目指すために継続投資する財源を確保します。

【主な管理運営費への投資項目例】

- ゲレンデ(ツリーランコース)の整備、圧雪車の整備・修繕
- 老朽化した施設、索道(ゴンドラ・リフト)の改修・修繕
- 魅力・利便向上のための環境整備(リフト券発券機の追加、レストランへの券売機導入、二次交通の充実、コンシェルジュ機能の強化、Wi-Fi環境の充実 ほか)

イ 物価高騰への対応

原油価格、電気料金、人件費、食材費の高騰等、国内全体の消費者物価指数高騰に伴う運営コスト上昇に対応します。

ウ 市場価格との乖離

道内の同規模(総滑走距離等)のスキー場と比較すると、リンクスのリフト利用料金は非常に低価格であることから、施設の価値やサービスに見合う適正な料金を設定します。

【道内スキー場のリフト利用料金(大人1日券)の推移】

スキー場	総滑走距離	2021-22(R3)	2022-23(R4)	2023-24(R5)
カムイスキーリンクス	24,300m	3,800円	3,800円	3,800円
札幌国際	11,600m	4,600円	4,800円	5,000円
星野リゾートマム	21,460m	5,900円	5,900円	7,000円
富良野	23,630m	6,000円	6,500円	7,000円
十勝サホロリゾート	25,910m	5,800円	6,600円	7,700円
ニセコ全山	27,364m	8,100円	8,500円	9,500円
	※グランヒラフ			
ルスツリゾート	39,100m	6,500円	8,800円	11,500円

(3) 新利用料金設定基準(案)

リンクスの新リフト利用料金を検討するにあたり、総滑走距離等が類似した道内の2つのスキー場、星野リゾートトマムスキー場(以下「トマム」という。)、富良野スキー場(以下「富良野」という。)を参考としました。

ア 他のスキー場との比較

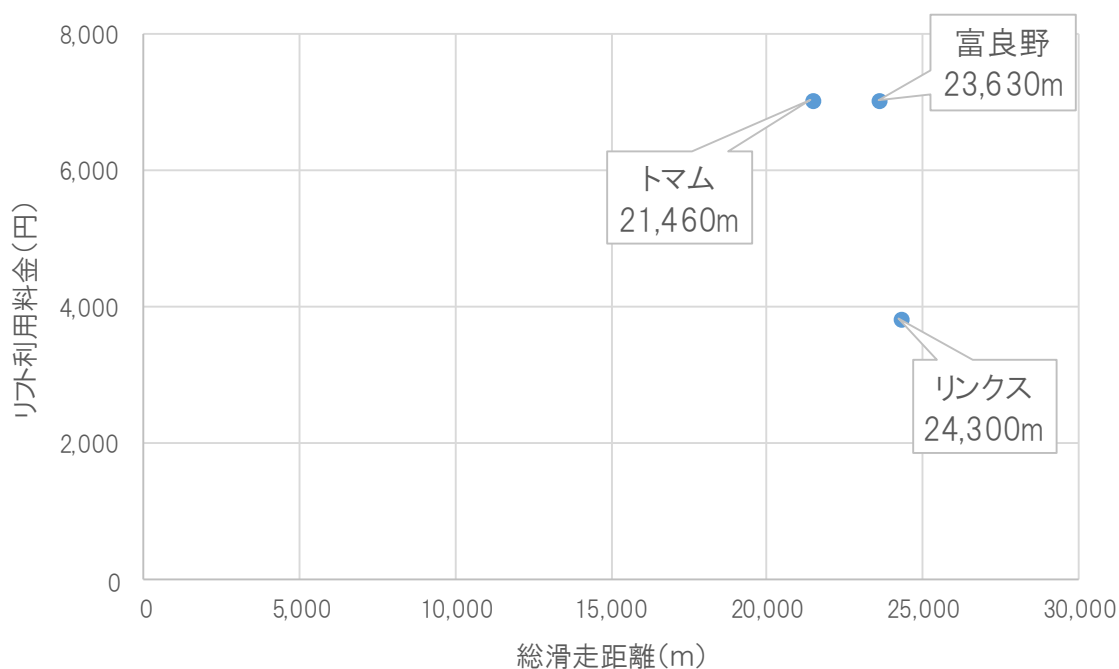
次の表からもわかるように同規模のスキー場であるトマム、富良野の現行の大人1日券リフト利用料金がいずれも7,000円であるのに対し、リンクスは3,800円と半額程度の金額設定となっています。

【リフト利用料金(大人1日券)の比較】

区分	券種	リンクス	トマム	富良野
大人	1回(リフト)	400円	1,000円	900円
	1回(ゴンドラリフト)	1,000円	2,200円	2,800円
	回数券(リフト12回分)	3,100円	設定なし	7,200円
	4時間券	3,300円	6,000円	5,800円
	1日券	3,800円	7,000円	7,000円
	1期間(シーズン券)	60,000円	75,000円	75,500円

※富良野の4時間券料金は、3時間券と5時間券の平均額

【総滑走距離とリフト利用料金の相関】



イ リフト利用料金の上限額

トマム、富良野の現行料金をベンチマークとしてリンクスの施設規模・価値として適正なリフト利用料金の上限額を検討し、新利用料金設定基準を定めました。

来シーズンからのリフト利用料金(基本料金)につきましては、上限額の範囲内で指定管理者と協議し、「カムイスキーリンクス利用料金規程」で定めます。

また、市民及び近隣市町村の方が利用しやすい20時間券を新たに導入するとともに、シニア料金の対象を「60歳以上の者」から「65歳以上の者」に改定します。

【上限額の改定率】

- ①大人・シニア：現行料金から約80%増
- ②小学生：現行料金から約50%増
⇒スキーマの普及、ジュニア育成のため、価格・改定率を抑えた上限額設定
- ③各シーズン券：現行料金から約20%増
⇒市民、近隣市町村の方が利用しやすいよう価格・改定率を抑えた上限額設定

【新利用料金設定基準(案)】

区分	券種	旧上限額	新上限額	改定率
大人	1回(リフト)	400円	700円	175%
	1回(ゴンドラリフト)	1,000円	1,800円	180%
	回数券(リフト12回分)	3,100円	5,700円	184%
	4時間券	3,300円	6,100円	185%
	1日券	3,800円	7,000円	184%
	1期間(シーズン券)	60,000円	72,000円	120%
	【新設】20時間券	—	26,000円	—
	【新設】+5時間券	—	6,500円	—
小学生	1回(リフト)	200円	300円	150%
	1回(ゴンドラリフト)	400円	600円	150%
	回数券(リフト12回分)	1,400円	2,100円	150%
	4時間券	1,600円	2,400円	150%
	1日券	1,800円	2,700円	150%
	1期間(シーズン券)	24,000円	30,000円	125%
	【新設】20時間券	—	10,000円	—
	【新設】+5時間券	—	2,500円	—
60歳以上の者 → 65歳以上の者	1回(リフト)	400円	700円	175%
	1回(ゴンドラリフト)	1,000円	1,800円	180%
	回数券(リフト12回分)	2,700円	4,900円	181%
	4時間券	2,900円	5,300円	183%
	1日券	3,200円	5,900円	184%
	1期間(シーズン券)	52,000円	64,000円	123%
	【新設】20時間券	—	22,000円	—
	【新設】+5時間券	—	5,500円	—

ウ 20時間券の新設

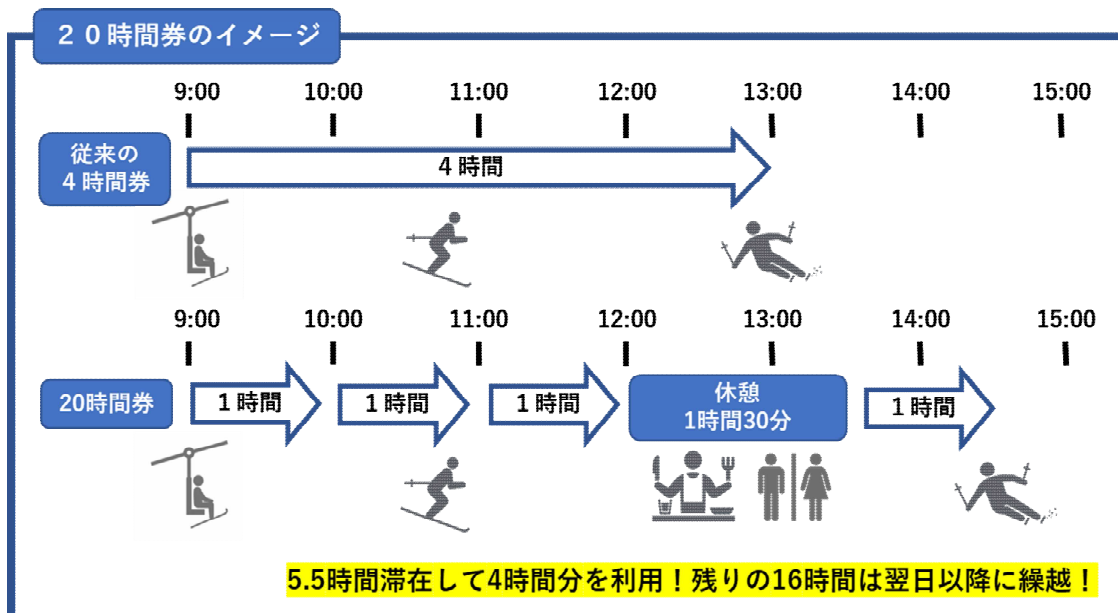
(2)で示す背景から、全体的なリフト利用料金の値上げとなりますが、シーズン中に複数回リンクスを利用いただいている旭川市民や近隣市町村の皆様向けに、新たに「20時間券」を導入します。

【20時間券とは】

20時間券はシーズン中であれば1時間単位で日付をまたぎ利用できるリフト券です。

従来の4時間券は、最初のリフト乗り場のICゲート通過から連続4時間有効でしたが、20時間券は最初のリフト乗り場のICゲート通過時に1時間減算され、減算されたタイミングから1時間は何度でもリフトに乗ることができます。次のICゲート通過までは減算されないため、時間を気にせず休憩や昼食をとることができます。

また、シーズン中は5時間単位でチャージすることができます。



【大人4時間券との比較】

区分	券種	利用料金案	1時間単価
大人	4時間券	6,100円	1,525円
	【新設】20時間券	26,000円	1,300円
	【新設】+5時間券	6,500円	1,300円

4時間券 : 6,100円 × 5枚 = 30,500円

20時間券 : 26,000円

4,500円 お得！かつ、実際の施設利用時間は20時間以上になります！

エ シニア料金対象年齢の改定

昨今、「65歳以上」がシニアに当たると捉えられることが多いこと、ルスツリゾート、ニセコ全山のほか、近郊のキャンモアスキー場、サンタプレゼントパークにおいてもシニア料金の設定年齢を「65歳以上」としていることから、リンクスのシニア料金についても見直し、対象年齢を「60歳以上の者」から「65歳以上の者」に引き上げます。

【区分の改定】

区 分		備 考
旧	60歳以上の者	2023-24(R5)まで
		
新	65歳以上の者	2024-25(R6)以降

(4) その他

リンクスの設置目的として、条例で「市民の心身の健全な発達及びスポーツの振興を図るため、スキー場を設置する。」と定めていることから、スキー・スノーボードの普及や競技力向上のため、「カムイスキーリンクス利用料金規程」でシーズン券の「市民割」を新設します。

また、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方及びその介助者が半額程度で利用できる「障がい者等割引」のほか、学校授業、合宿大会等の割引価格は継続して設定します。